

各モデルの比較表

		収益認識のトリガー	契約負債の認識	契約負債の性格	問題点
複数要素 取引処理	公正価値モデル	契約履行義務の出口価格の変動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出口価格 ・ 当初認識は入口価格（顧客対価）で認識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初認識時は繰延収益 ・ それ以降の決算時は負債性引当金 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約負債の認識基準に一貫性がない ・ 実現の見込みが乏しい負債の評価益が計上される
	実現・稼得モデル	契約義務の履行（財の引き渡し／流動性ある対価の受け取り）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入口価格（顧客対価）で認識 ・ 再測定はなし 	繰延収益	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰延収益は現行の負債の定義を満たすか？
	予備的見解	契約義務の履行（支配の移転）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入口価格顧客 ・ 不利な変更は再測定（損失を認識） 	繰延収益	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公正価値モデルに内在した一貫性の欠如を克服している。 ・ 契約義務の出口価格の不利な変更にこだわる理由は？（これを除くと実現・稼得モデルに帰一する）
単一要素 取引処理	(参考) 負債性引当金方式	契約義務の履行（(財の引き渡し／流動性ある対価の受け取り）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出口価格 	負債性引当金	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数要素を区分しない。

「入口価格」：顧客から受け取った対価（の前受け）

「出口価格」：契約義務の履行に要するコスト